

ちょっといい話 (No.6)

令和元年度 引き継がれるボランティアの伝統＝「熱い思い」

国立吉備青少年自然の家

国立青少年教育振興機構には、全国28施設に共通する「法人ボランティア」制度がある。共通カリキュラムにより、各施設で毎年養成されており、吉備では91名が登録して活動している。

吉備の法人ボランティアは、ボランティアの自主組織を構成し、「吉備ウーリーズ」と名付けている。吉備でのボランティア活動を行いながら、毎月の定例会や自主企画事業の実施、全国の他施設との交流などにも取り組んでいる。令和元年度は、子どもゆめ基金助成活動として「ウーリーズ UP×2 キャンプ」も実施した。

令和2年3月28日(土)～3月29日(日)の1泊2日で、「吉備ウーリーズ卒業キャンプ」が企画・実施された。

大学を卒業する節目に、先輩方との思い出づくりと感謝の会である。後輩たちが、これまでのエピソードを活用したオリジナルのクイズやゲームで盛り上げ、夜の交流会でも新たな思い出のページが増えていった。

2日目の卒業式では、後輩からひとり一人に「Aさんに出会えたことでボランティアに挑戦しようと思った。」や「たっぷりタっぷり相談に乗ってくれて、泣き言を聞いてくれてありがとう。」などと感謝の言葉が述べられた。

それに応えて、卒業する先輩から「**苦しんだ分、泣いた分だけ成長できるよ。**」や「**かつての黄金時代を超えて、レインボー時代が築けているよ。**」などのエールが送られた。

吉備の法人ボランティア「吉備ウーリーズ」の熱い思いが引き継がれる瞬間であり、この伝統を充実・発展させてほしいものである。



なお、「吉備ウーリーズ」のもう一つの伝統は、社会人になってもボランティア登録を続ける人が多いことである。